

百人一首
講譯入

撰
栗百人源氏文章全





順徳院の時時
歌合の古寺月と
知家朝臣

昔より

ふたねお

はつおまき

そりる月

けふふく

うらひるす

新福

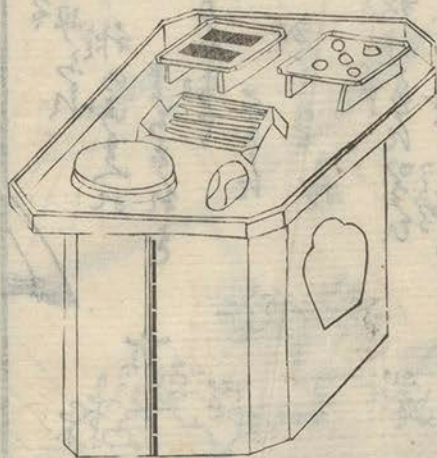
へと面

事



組附りものの圖

いづれ三枚のうちの一枚の方にちぎって
お茶のいりや小角にまんね二たの角は
小角打栗の中々小角の角を綴るから
式二枚のいりやまんねを繋ぐと繋ぐと
まんねの基へお茶のいり



茶桶と紙とまき

いすのいり

税言の

時十二

国月や

十三

むき

二の

志は

り

ここの

志は

り

ここの

志は

り

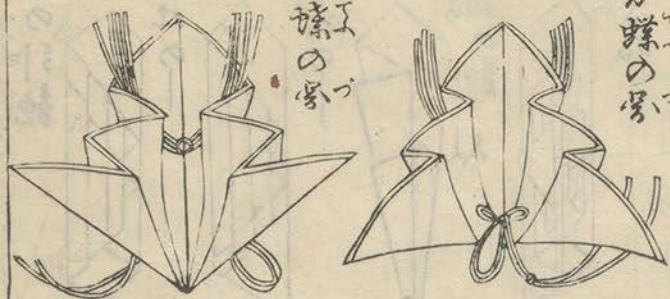
ここの

志は

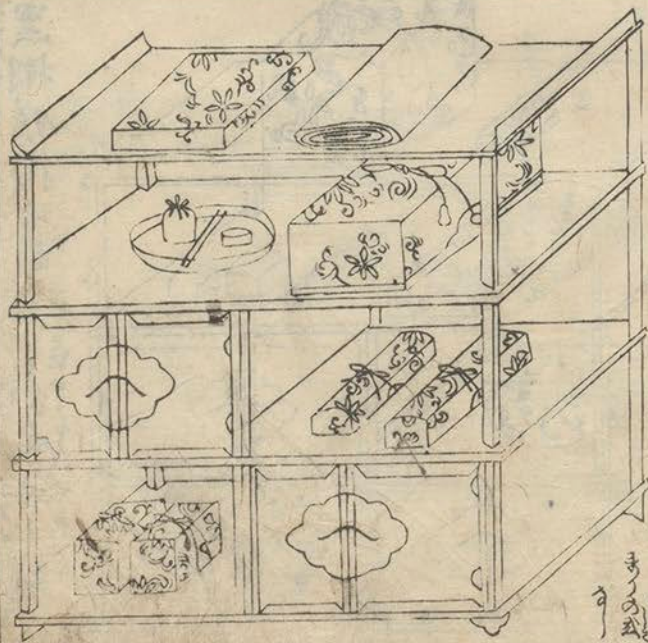
折形紙包物圖

男様の紙

女様の紙



浄厨子櫃松の圖床のたし置



いすのいり
税言の
時十二
国月や
十三
むき
二の
志は
り
ここの
志は
り
ここの
志は
り

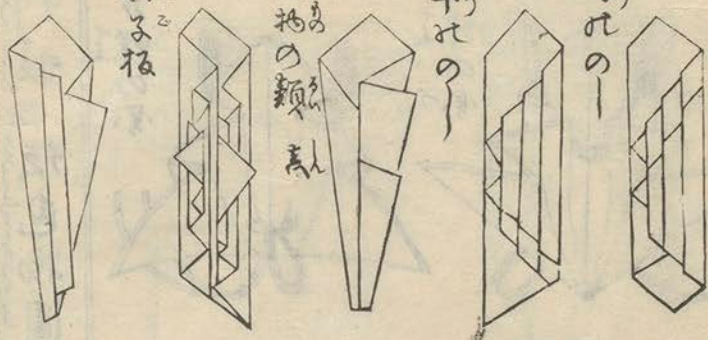
真の
引の
絶

ぎやう
行れの

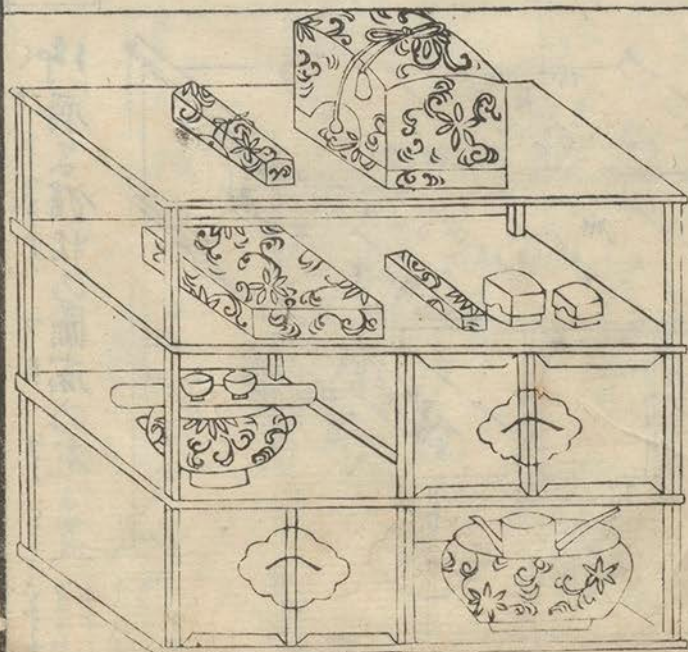
草の

板の
柄の
類
人

羽子板



黒棚候板の圖



あつし
の 類

和
久

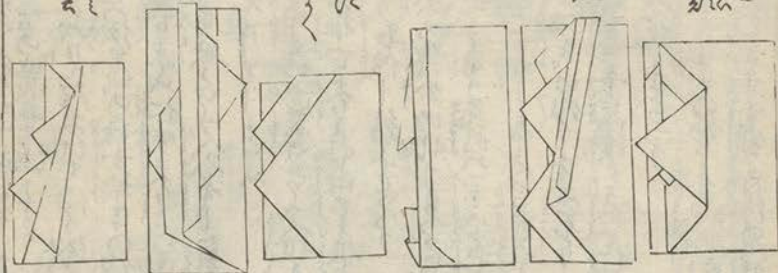
子てぬ
杖

ふく

魚に
ぢぢ

筆

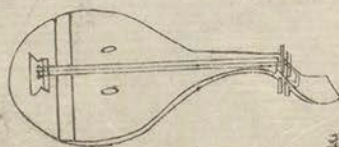
12/12/12



琴 こと



琵琶



襪むち

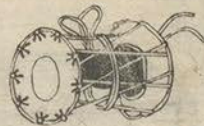


蕭セウ



[illegible]

鼓



大鼓



笙

篳篥



笛ふえ



太鼓



佳撰集第六秋歌
大むさとの門にふり
次へのり候々とうり
かゝる衣多きなり

天智天皇

秋の雨

乃

唐の

卷九

わ

王^{この}家^でよ

癸卯

如
れ
は



新古今第三夏歌
けふころもくぬは
あめあふふと
うけちとる人あま

指統天皇

春

きよなり

卷之四

...

天、

の



古今第四秋
 げんごうはふたばあきとてまきとむむのこたけなふねと
 うなれとるうらふねとるふたばあきとて天下の秋まはる
 秋のうらふねとるふたばあきとて天下の秋まはる

おののちと

大い子星

あきとるふたばあき

あきとるふたばあき

あきとるふたばあき

あきとるふたばあき

あきとるふたばあき

あきとるふたばあき

あきとるふたばあき



古今第九龍旗歌

げんごうはふたばあきとてまきとむむのこたけなふねと
 うなれとるうらふねとるふたばあきとて天下の秋まはる
 秋のうらふねとるふたばあきとて天下の秋まはる

龍旗歌

あきとるふたばあき

あきとるふたばあき

あきとるふたばあき

あきとるふたばあき

あきとるふたばあき

あきとるふたばあき

あきとるふたばあき



古今第三秋
 げんごうはふたばあきとてまきとむむのこたけなふねと
 うなれとるうらふねとるふたばあきとて天下の秋まはる
 秋のうらふねとるふたばあきとて天下の秋まはる

三條天皇

あきとるふたばあき

あきとるふたばあき

あきとるふたばあき

あきとるふたばあき

あきとるふたばあき

あきとるふたばあき

あきとるふたばあき

あきとるふたばあき



古今第九龍旗歌
 げんごうはふたばあきとてまきとむむのこたけなふねと
 うなれとるうらふねとるふたばあきとて天下の秋まはる
 秋のうらふねとるふたばあきとて天下の秋まはる

龍旗歌

あきとるふたばあき

あきとるふたばあき

あきとるふたばあき

あきとるふたばあき

あきとるふたばあき

あきとるふたばあき

あきとるふたばあき

あきとるふたばあき



[illegible]

わさちぬの

主

し

あ

70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

人乃其也

[illegible]

平道盤

あづき

22

生

五

大
お
と

人のふりまで



いふは、この心は、いふに、往く、く、を、め、ま、と、つ、つ、あ、
ふ、の、こ、こ、と、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、
つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、
つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、

壬生忠見

夢

王公大臣

まじり

立

人々

おひるあー

[illegible]

清原元輔

災ちかきれ

袖

志多

傳

上巻の
下巻

た
こ
は



いふかえむくはあわれと人ゆくもえさるる本ある秋をまじけ
こゝろとてかえむくはあわれと人ゆくもえさるる本ある秋をまじけ
かゝるもあわれと人ゆくもえさるる本ある秋をまじけ

惠安法師

や
と
むらう
ちびまる



秋ハ来小なり

秋ハ来小なりとてゆきき、思ふもあはれなることなり、ふと
いふもあはれなることなり、ふと
いふもあはれなることなり、ふと

源重之



いふかえむくはあわれと人ゆくもえさるる本ある秋をまじけ
こゝろとてかえむくはあわれと人ゆくもえさるる本ある秋をまじけ
かゝるもあわれと人ゆくもえさるる本ある秋をまじけ

坂東義孝



君ハ来小なり

人ハ来小なり

秋ハ来小なり

物ハ来小なり

秋ハ来小なり

秋ハ来小なり

後拾遺第十二卷

けりまゝにふりかへしおのふもほろひまゝに
ふりかへしおのふもほろひまゝにふりかへし
おのふもほろひまゝにふりかへしおのふも
ほろひまゝにふりかへしおのふもほろひ



金葉集九卷

ふりかへしおのふもほろひまゝにふりかへし
おのふもほろひまゝにふりかへしおのふも
ほろひまゝにふりかへしおのふもほろひ
まゝにふりかへしおのふもほろひまゝに



調花第一卷

けりまゝにふりかへしおのふもほろひまゝに
ふりかへしおのふもほろひまゝにふりかへし
おのふもほろひまゝにふりかへしおのふも
ほろひまゝにふりかへしおのふもほろひ



後拾遺十六卷

ふりかへしおのふもほろひまゝにふりかへし
おのふもほろひまゝにふりかへしおのふも
ほろひまゝにふりかへしおのふもほろひ
まゝにふりかへしおのふもほろひまゝに



いかにたのしみかきつゝあはれをいふはなれど
はらへたふもつゝあはれをいふはなれど
はらへたふもつゝあはれをいふはなれど
はらへたふもつゝあはれをいふはなれど

大納言経言



ゆきづね
いまでも
つぎ
はれ
まろや
わさうや

いかにたのしみかきつゝあはれをいふはなれど
はらへたふもつゝあはれをいふはなれど
はらへたふもつゝあはれをいふはなれど
はらへたふもつゝあはれをいふはなれど



まろや
わさう
ゆきづね
いまでも
つぎ
はれ
まろや
わさう

いかにたのしみかきつゝあはれをいふはなれど
はらへたふもつゝあはれをいふはなれど
はらへたふもつゝあはれをいふはなれど
はらへたふもつゝあはれをいふはなれど

茶中紀言江戸房



高砂の
よのへろ
はれ
まろや
わさう
ゆきづね
いまでも
つぎ
はれ
まろや
わさう

いかにたのしみかきつゝあはれをいふはなれど
はらへたふもつゝあはれをいふはなれど
はらへたふもつゝあはれをいふはなれど
はらへたふもつゝあはれをいふはなれど

源俊朝



山
はれ
まろや
わさう
ゆきづね
いまでも
つぎ
はれ
まろや
わさう

はるのそとをみればふかき山もさかきもさかき
はるのそとをみればふかき山もさかきもさかき
はるのそとをみればふかき山もさかきもさかき
はるのそとをみればふかき山もさかきもさかき

万葉集歌



はるのそとをみればふかき山もさかきもさかき
はるのそとをみればふかき山もさかきもさかき
はるのそとをみればふかき山もさかきもさかき
はるのそとをみればふかき山もさかきもさかき

待賢門院



はるのそとをみればふかき山もさかきもさかき
はるのそとをみればふかき山もさかきもさかき
はるのそとをみればふかき山もさかきもさかき
はるのそとをみればふかき山もさかきもさかき

後醍醐天皇



はるのそとをみればふかき山もさかきもさかき
はるのそとをみればふかき山もさかきもさかき
はるのそとをみればふかき山もさかきもさかき
はるのそとをみればふかき山もさかきもさかき

道因法師



けつらんくへん...
けつらんくへん...
けつらんくへん...

中屋室後成

女の中

みれ

おひ

おひ

おひ

おひ



けつらんくへん...
けつらんくへん...
けつらんくへん...

有宗清浦朝長

おひ

おひ

おひ

おひ

おひ

おひ



けつらんくへん...
けつらんくへん...
けつらんくへん...

後成

おひ

おひ

おひ

おひ

おひ

おひ

おひ



けつらんくへん...
けつらんくへん...
けつらんくへん...

有宗清浦朝長

おひ

おひ

おひ

おひ

おひ

おひ

おひ



人清

あふと

常

第一本巻

兵

夏

家うら香

部

や

海や

口

水

休道の

そ

衆

夕う

あ紫乃

毎

あふと

う

野

あふと

紅梅

花は香

色

風

あふと

あふと

あふと

紅葉乃實

思ふ

凡成りて花

花

日

くわに花

雲

結ひつる

や川

佛書

くわに

雲外

林乃枝々

くわに

くわに

屋

石乃里

郭

花

洞磨

くわに

林乃

くわに

年

あゝ

のこ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

外
葉
横筆
世
解
世
解

知
和
橘
極
極
極

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

源氏物語

四季

春

春

春

春

春

春

春

春

春

春

春

春

春

石別

あゝ

さくさく

さくさく

さくさく

さくさく

さくさく

さくさく

さくさく

さくさく

さくさく

さくさく

さくさく

さくさく

さくさく

さくさく

さくさく

さくさく

さくさく

さくさく

さくさく

さくさく

さくさく

さくさく

上



一

雨

分

卷之六

珠

7

珍馬

桃園

五

1

智

七

公

源

七

重刻

75



子

卷十

七

卷之

工

三

ふり葉

廣打

小原

長久

栗

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

[illegible]

¥705

聴見学園女子大学短期大学部図書館



1001832573

○百人一首讀癖

[illegible]

于時文化七年歲次
重光協洽孟春新板

極元

江戸通油町 村田屋次郎兵衛
神田辨慶橋道 丸屋文右衛門



松原清久

[illegible]

下井
昌保

○百人一首讀癖よみてくせ

[illegible]

于時文化七年歲次
重光協洽孟春新板

極元

江戸通油町 村田屋次郎兵衛
神田辨慶橋道 丸屋文右衛門

